令和２年度　宮崎市

だれもが住みよいまちづくり賞

小規模施設
【優秀賞】

ながい耳鼻咽喉科 Miyazaki Voice Clinic

小規模施設
【奨励賞】

セブン-イレブン 宮崎淀川3丁目店

宮崎市

小規模施設

優秀賞 ながい耳鼻咽喉科 Miyazaki Voice Clinic

所　在　地：宮崎市新別府町土田 582 番 1
所　有　者：長井　慎成
主要用途：医療施設（診療所）
設　計　者：株式会社　ジョイハウス

○講評

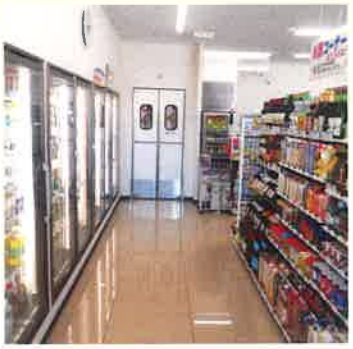
敷地には、車椅子使用者専用の駐車場が整備されている。建物出入口は自動ドアで入りやすく、入口から容易に視認できる位置に受付カウンターが設けられている。院内は、診察室や廊下等に段差がなく、車椅子使用者の方でもスムーズに移動することが可能である。障がいをもった方が診療を受ける場合は、院内スタッフが責任をもって対応してくれる。

また、多目的トイレが男女別々に設けられており、トイレ内部には、フィッティングボード、ベビーチェア、ベビーベットなどが設置されている。

ハード面・ソフト面の両面からバリアフリーへの配慮が高く評価された。

小規模施設

奨励賞 セブン-イレブン宮崎淀川3丁目店



所　在　地：宮崎市淀川3丁目10番1号
所　有　者：株式会社セブン－イレブン・ジャパン
代表取締役　古屋　一樹
主要用途：物品販売施設
（コンビニエンスストア）
設　計　者：株式会社　岩切設計

○講評

敷地には、車椅子使用者専用の駐車場が建物出入口の近くに整備されており、利用しやすい。店内の通路幅は広く設けてあり、車椅子での移動も容易である。陳列棚は、商品全体が見渡せる高さなので、目的の商品が見つけやすい。

また、多目的トイレには、便座の左右どちらにも手すりが設けられており、フィッティングボードも設置されている。

宮崎市だれもがすみよいまちづくり賞について

バリアフリーデザインの普及を目的に、障がい者や高齢者等を含めてだれもが利用しやすい、モデルとなるような民間建築物を表彰するために、平成２０年度から実施しています。賞の選考は、高齢者や障がい者、子育て支援、建築士、理学療法士などの団体から、１１名の委員で構成された「宮崎市バリアフリー検討会」において行っています。

審査方法は、「宮崎市福祉のまちづくり条例」の整備基準に適合し、適合証の交付を受けた民間の施設を対象に、整備基準の異なる「小規模施設部門」と「中・大規模施設部門」に分けて、第一次審査（書類選考）、第二次審査（現地選考）を経て第三次審査において各賞の選出を行います。

○バリアフリー検討会の様子

○バリアフリー　～利用者の立場から～

これまでバリアフリー検討会の中であげられた、障がい者や高齢者等の方々が「工夫すると使いやすくなる」・「せっかくの設備が使いにくい」と感じている意見を紹介します。

点字ブロック（注意喚起用床材・誘導用床材）

片方の扉へ向かって点字ブロックが敷設されています。誘導のルートを分離すると、車椅子やベビーカーなどもスムーズに通ることができます。

点字ブロックの上にマットが敷かれている所が多いです。また、車椅子やベビーカー、高齢者の動線と交差しているため、つまづきの原因になりかねません。

障がい児・者の父母から

多機能トイレには、ベビーシートだけでなく、大人でも使えるようなオムツ替えシートの設置要望があります。

宮崎市バリアフリー検討会委員　審査を振り返って

米村　敦子　議長
（宮崎大学教育学部　特別教授）

民間建築物のバリアフリー促進を目的とする「宮崎市だれもが住みよいまちづくり賞」は、私たち「バリアフリー検討会」が検討し審査する顕彰事業で、第10回となりました。今回は、平成30年単年度の対象建物について書類審査・現地審査を行い、今後に期待を込めて、小規模施設の優秀賞1、奨励賞1を選びました。中大規模施設に該当はなく、最優秀賞もありません。現在、建築物のバリアフリー化は当然と考えられ、進展していますが、道半ばだと思います。使用しづらい多目的トイレやスロープ、物が放置された点字ブロックや手摺りなども散見されます。多様な利用者にとって危険や不便となるバリアを確実になくしていかねばなりません。緊急時対応も含め、視覚障がいや聴覚障がい等、様々な障がいを持つ方への人的支援のバリアフリー化も望まれます。

内藤　廣之　委員
（NPO法人　宮崎市視覚障害者福祉会）

ながい耳鼻咽喉科については、受付カウンター、待合室、診察室、検査室等の配置が分かりやすく、障がい者の診療にあたっては院内スタッフが責任を持って誘導して頂ける事、障がい者の場合は院内でも薬の受取が可能であり、聴覚障がい者に対しては筆談も可能である等、多くの配慮がなされているところを高く評価しました。セブンイレブンについては、障がい者（車椅子）の目線で商品全体が見渡せる陳列方式なので目的の商品が見つけやすく、通路も広いため車椅子の操作が容易であること、また、店内の防災・防犯体制が整っているため、障がい者も安全かつ安心して買い物ができること等について評価しました。今後とも、障がい者・高齢者に対する気配り等の配慮をよろしくお願いします。

堀口　靖之　委員
（宮崎市聴覚障害者協会 会長）

昨年から初めて委員を務め、今年は審査にも携わることができ感謝しています。今回、対象となった施設のバリアフリーは、何かとハード面ばかりが強調されているイメージでしたが、視察をしながら、施設担当者との意見交換などを経て、ソフト面でも重要であり、なくてはならないことも分かりました。視察した施設は、これからの時代に合った新しいバリアフリーを実践しており、皆さまにお知らせ出来ることを嬉しく思います。私たち聴覚障がい者は、ハード面でのバリアフリーは勿論必要ですが、ソフト面でのバリアフリーも重要であることから、皆さまが「合理的配慮」の意識を持ってすれば、私たち聴覚障がい者だけでなく、誰にでもうれしいことではないでしょうか。

石川　博隆　委員
（一般社団法人 宮崎県理学療法士会 宮崎市郡北部ブロック長）

今回2期目の検討会委員を務めさせて頂きました。審査や視察において、「主にどういった方が使用する施設か」と「使用する可能性のある方はどういった方がいるか」という点に焦点を絞って参加させて頂きました。建設物のバリアフリー化を進めるにあたり、ほとんど使用する可能性のないものを取り付けている建物はあまり見受けられませんでした。各施設ともに建築前段階でしっかりと上記2点を踏まえてバリアフリー設備の設置か否かを判断し建築されていると思われます。しかし現実には、「使用する可能性のある方はどういった方がいるか」という点の対応までは準備されていない施設が多いと思われます。今回の表彰施設では、設備が整っていない場合のソフト面の対応までしっかりと準備されている施設が選ばれております。今回表彰されたような、設備が整っていなくてもソフト面での対応の充実を図り、どのような方でもご利用できる施設が増えていくことを期待します。

井田　志乃　委員
（公立大学法人　宮崎公立大学　助教）

今年度初めて検討会に出席させていただきました。今年度の特殊な状況下において、実際に建築物を視察できない状況が続く中での顕彰審査でしたが、他視点で活発にかわされる意見より、これまでの検討会や顕彰事業で積み重ねられてきた知見を学ばせていただきました。さらに、昨年度実際に建築物を視察された委員の皆さまのご意見をうかがい、図面や数点の写真のみによる審査が困難であることを実感いたしました。また、ソフトの面でのバリアフリーを実現するための取り組みについても、可視化して評価することができる指標の必要性について考えさせられる機会となりました。

日髙　達郎　委員
（一般社団法人　宮崎県建築士会　副会長）

11年目の委員をさせて頂いております。今回は新型コロナウイルス感染防止の観点から令和2年度の施設が見学できず、前年度、令和元年度の候補施設のみを対象に審査させて頂きました。審査の結果、優秀賞1、奨励賞1が選ばれました。コロナ禍の時代、建築に携わる設計者施工者が、バリアフリーに関して高い意識を持つとともに、コロナ対策できる建物をつくる事も意識しながら、業務に当る必要があると強く感じる今日この頃です。

田中　聡子　委員
（宮崎市肢体不自由児・者父母の会 会長）

宮崎市はユニバーサルデザインのまちづくりや心のバリアフリーに取り組むオリパラ東京大会共生社会ホストタウンに登録されています。社会貢献に寄与する大手企業努力も追い風となりハード・ソフト両面でバリアフリー化を目指す建築物が数多く見られるようになりました。今回受賞した2施設は様々な利用者に対応できるよう力を入れていると感じる反面、設置物や配置が微妙に使いづらい面も気になり課題克服を期待しつつの受賞という評価でした。これまでの検討会で培ってきたバリアフリーノウハウが、誰もが住みやすい宮崎のまちづくりに繋がっていくことを願っています。コロナ禍の新しい発想のバリアフリー化にも期待したいと思います。

森山　淑好　委員
（NPO法人 ドロップインセンター 理事長）

平成29年度よりバリアフリー検討委員に委嘱され、4年目になります。様々な立場の方々と様々な視点で検討を重ね、「だれもが住みよいまちづくり賞」の選考に携わらせて頂き、大変勉強になりました。多くの施設や企業が努力され、年々バリアフリーに配慮した建築物が増えてきましたが、視察に行くと図面だけではわからないことが見えます。利用される方によってニーズは違い、実際に使ってみないとわからないことが沢山あります。要望を全部取り入れるのは難しいと思いますが、それぞれの立場に立った配置への配慮やソフト面の充実を図り、これからも多くの方々が気持ちよく利用できる建築物が増えることを期待します。

大野　富美子　委員
（NPO法人 宮崎市手をつなぐ育成会 理事）

「宮崎市バリアフリー検討会」の審査に数年にわたり参加して参りました。令和2年度分の顕彰施設は、新型コロナウイルス感染症拡大の状況に鑑み現地視察が行えず令和元年度の顕彰施設の中から、優秀賞・奨励賞が決定しました。高齢者、障がい者等をはじめとするすべての市民が安心して生活ができ、自らの意思で自由に行動し、あらゆる分野の活動に参加できるようになるために、民間建築物のバリアフリー化を行うことが「宮崎市だれもが住みよい福祉のまちづくり」になると思います。たとえば、多目的トイレにしても鍵が小さくて開閉しにくかったり、利用する人がどのような状況にあるかを考え対応する力、建物や運営に携わる人の熱意に関わってくると感じています。

森　愛実　委員
（NPO法人 障害者自立応援センター YAH!DO みやざき 運営委員）

バリアフリー検討会への参加を通して、それぞれの立場からの視点に気付かされています。車いすユーザーからの視点としてトイレの広さ、使いやすさが施設によって様々で良い面ももちろんありますが、改善してほしい面もあったりと利用する人が参画していけたらより良いものができるのではないかと思いました。ハード面で補えないところはソフト面での配慮が広がっていくことで「だれもが住みよいまちづくり」になっていくと感じています。

岩元　勇　委員
（宮崎市老人クラブ連合会　副会長）

今年度から宮崎市バリアフリー検討会に参加させて頂いております。身体障がい者や高齢者等にいかにその施設が安全で利用しやすく造られているかの審査をさせていただきました。様々な立場の方々と検討会が出来て大変勉強になりました。バリアフリーに関心が高まり今後もすばらしいバリアフリー施設の建築物が数多く出来ることを願っています。

宮崎市だれもが住みよいまちづくり賞
主　催：宮崎市
事務局：宮崎市都市整備部建築行政課

〒880−8505　宮崎市橘通西1丁目1番1号
TEL：0985−21−1813　FAX：0985−21−1815
E-mail：30sidou@city.miyazaki.miyazaki.jp